

参 考 手 本

義に投ずる志の希う所

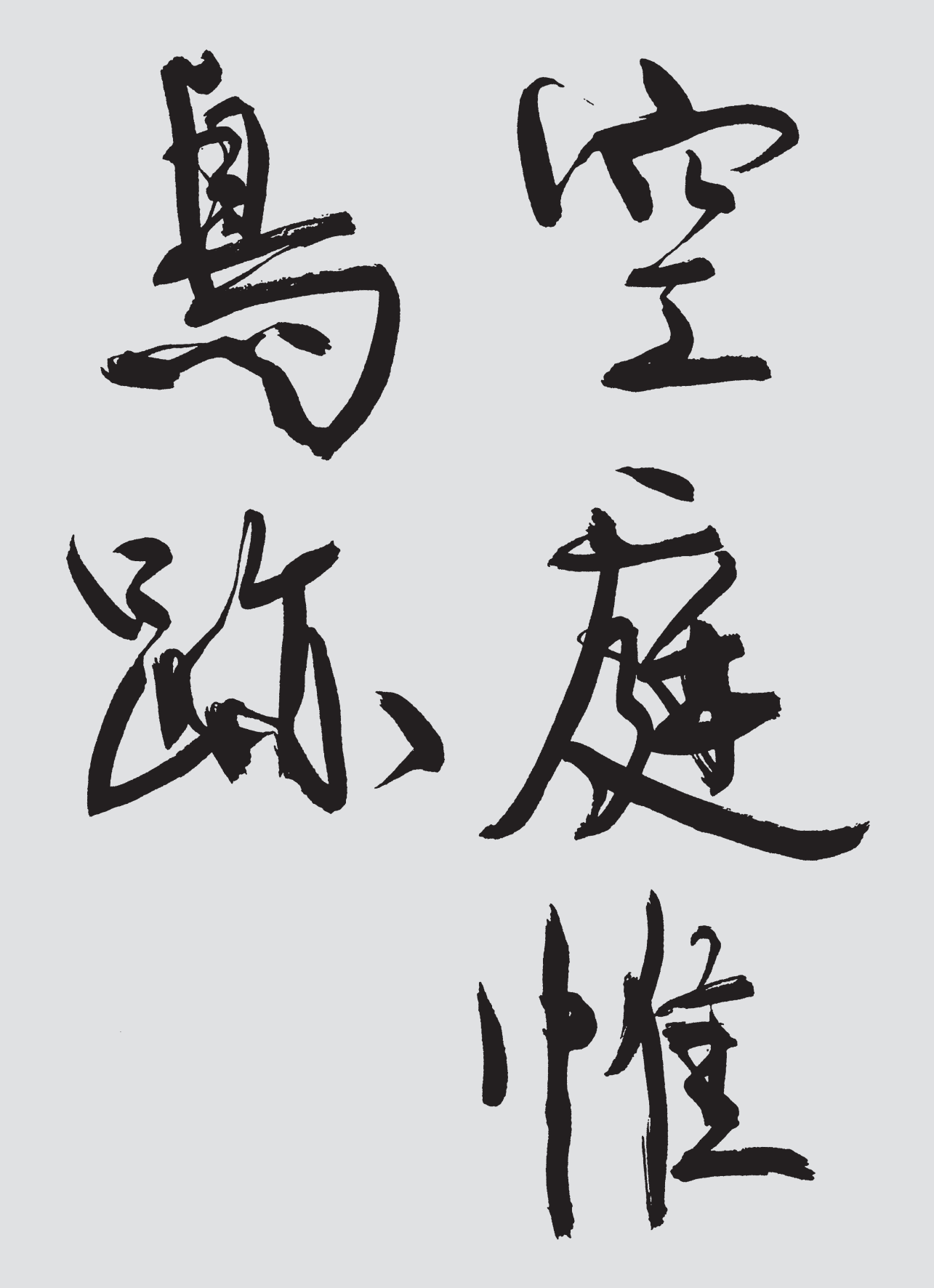
投 義 志
所 希

※これは規定課題ではありません。

高 木 聖 雨 先 生

参 考 手 本

空庭ただ惟鳥の跡

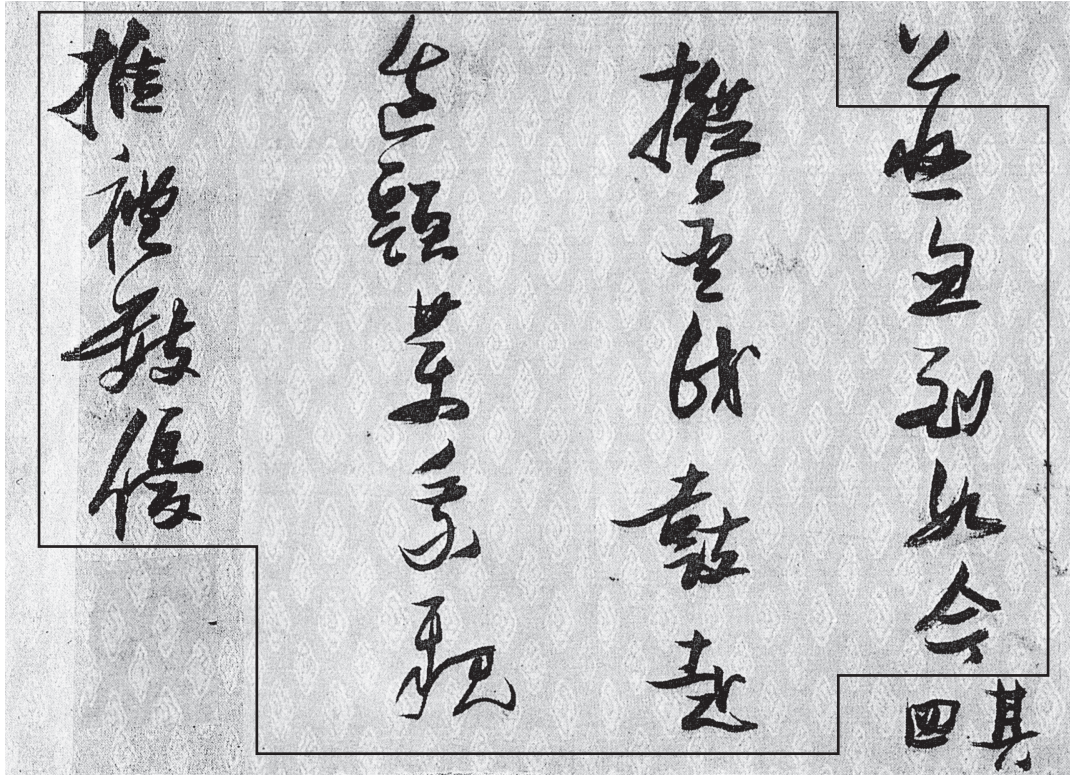


※これは規定課題ではありません。

成
瀬
映
山
先
生

条幅規定 ①

A部 (準五段以上)



到倏忽到如今 其四
推禮數優

ちようずいと
張瑞凶 (明) 『感遼事作六首卷』 ⑫

(公) 倏忽到如今 (其四)

攬金伐鼓赴

邊頭萬衆親

推禮數優

諸公倏忽として 如今に到る

金を攬ち鼓を伐ちて 辺頭に赴く

萬衆親しく推す

礼数の優

諸公ちゆうこうは何もせず^{おろそか}にたちまち今に至ったのだ。
金を鳴らし太鼓を打ちながら辺境に赴く、
軍人すべて親しく破格の優遇を受けて。

【今月の課題】

「倏忽到如今其四」攬金伐鼓赴邊頭萬衆親推禮數優 (19字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く
段・級を記入してください

(5月10日締切)

条幅規定 ②

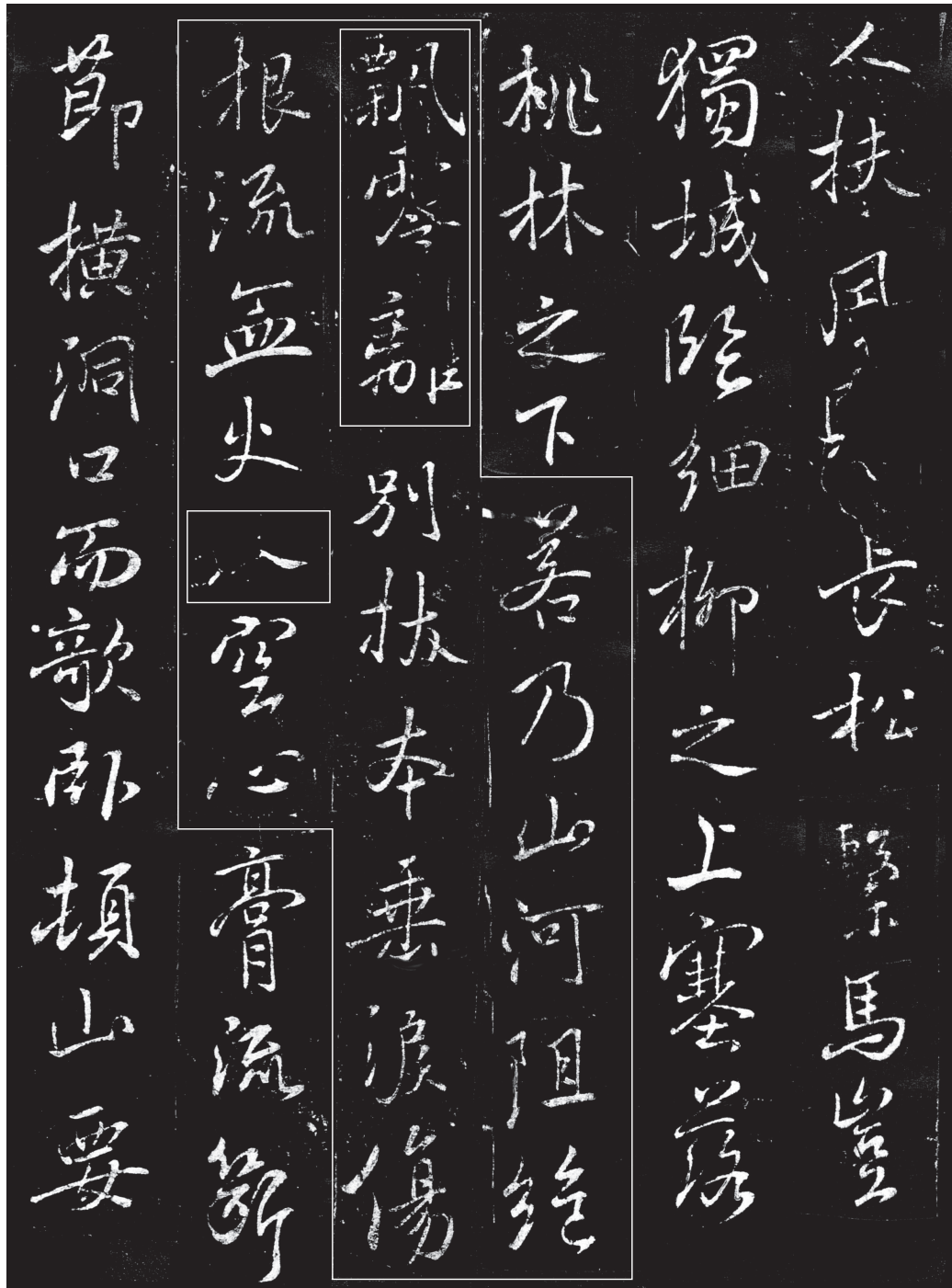
B部 (四段以下)

『枯樹賦』

楮遂良

(唐)

⑰



人。扶風則長松繫

馬。豈獨城臨細柳之上。

塞落桃林之下。若乃山河

阻絕。飄零離別。拔本垂

淚。傷根流血。火入空心。

膏流斷節。橫洞口而歌臥。

頓山要

人を留め、扶風は則ち長松に馬を繋ぐ、豈に独り城の細柳の上に臨み、塞の桃林の下に落つるのみならんや。若し乃ち山河阻絶し、飄零離別すれば、本を抜かれて涙を垂れ、根を傷めて血を流す。火は空心に入り、膏は断節に流る。洞口に横たわりて歌に臥し、山腰に頓れて

【今月の課題】「若乃山河阻絶 飄零離別 拔本垂流 傷根流血 火入空心」(18字)

※□は欠字

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・綴を記入して下さい

(5月10日締切)

半紙規定 (二)

半紙規定 (一)

曹全碑 (漢・作者不詳)



完敦效穀

※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

九成宮醴泉銘 (唐・欧陽詢)



者刑殺當罪

景完・敦煌效穀の人なり。

※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隸書

〔二級以下〕楷書

王者刑殺の罪に当たり、

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
(5月10日締切)

条幅参考手本

貴人三閣上 日晏未梳頭 不應有恨事 嬌甚却成愁

大井岳陵先生

貴人三閣上 日晏未梳頭 不應有恨事 嬌甚却成愁

貴人三閣の上 日晏く未だ頭を梳らず 応に恨事有るべからず 嬌甚しく却つて愁を成す

渡辺小逕先生

葉暗前朝雨 花飛昨夜風 空山人不見 春在綠陰中

葉暗前朝雨 花飛昨夜風 空山人不見 春在綠陰中

葉は暗し前朝の雨 花は飛ぶ昨夜の風 空山人を見ず 春は綠陰の中に在り

条幅参考手本



細野江華先生

躍馬長安道 春風向冶遊 五陵花落盡 公子不知愁
馬を躍らす長安道 春風冶遊に向かふ 五陵花落ち盡きて 公子愁を知らず

条幅かな



浮乗清郷先生

雨そそぐ花橋に風過ぎて 山ほととぎす雲に鳴くなり (藤原俊成)
あめ、はな、はし、かぜ、やま、くも、な
曾、九、耳、寶、支、九、母、二、奈、理

※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。

支部名 段級 姓号 (鉛筆可)

(5月10日締切)

半紙かな（1級以下）

か
げ
ろ
ふ
や
ほ
ろ
く
落
つ
る
岸
の
砂
（服部土芳）

か
げ
ろ
ふ
や
ほ
ろ
く
落
つ
る
岸
の
砂

か
げ
ろ
ふ
や
ほ
ろ
く
落
つ
る
岸
の
砂

支部名 級 姓 号 (鉛筆可)

※ちらし文字変換は自由

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

滝
の
音
は
た
え
て
久
し
く
な
り
ぬ
れ
ど
名
こ
そ
流
れ
て
な
ほ
聞
え
け
れ
（藤原公任）

滝
の
音
は
た
え
て
久
し
く
な
り
ぬ
れ
ど
名
こ
そ
流
れ
て
な
ほ
聞
え
け
れ

滝
の
音
は
た
え
て
久
し
く
な
り
ぬ
れ
ど
名
こ
そ
流
れ
て
な
ほ
聞
え
け
れ

支部名 段 姓 号 (鉛筆可)

若 月 久美子 先生

※ちらし文字変換は自由

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

(5月10日締切)

浮 乘 清 郷 先生

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

明治から終戦までの所謂近代の書
は、日中交流が盛んになつた明治
と江戸の名称の交り交つた多様
で活気に満ちた時代であつた。
支部名 段級 姓号

朝平霞山先生

(5月10日締切)

細 字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より P22

主幹 菅野翠濤

	並	並	並
	建	建	建
	架	架	架
	橋	橋	橋
	卧	卧	卧
	川	川	川
	百	百	百
	貨	貨	貨

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。

初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

臥が並

川建

川が横たわる。
ならび建つ。

(5月10日締切)

硬筆（1級以下）

2行、楷書

桜隠しとは、満開の桜に積もる雪
 のことを言い、春の季語です。

支部
 級
 姓
 号

齊藤 翡翠流 先生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

新入学…入社…機会…。

春は新入学、新学期、新入社など
 人との出会いの機会が増え、心も
 改まる時季といえる。

支部
 名
 段
 姓
 号

青柳 江雲 先生

※本院定型用紙・たて半分に書く

（5月10日締切）

中2用

支部名	流れ	空気
段級	れ	の
名前		
前		

渡邊南嶂先生

中3用

支部名	友	達	学	校
段級	達	校	の	
名前				
前				

大越三宗先生

小6用

支部名	相	話
段級	手	し
名前		
前		

渡邊南嶂先生

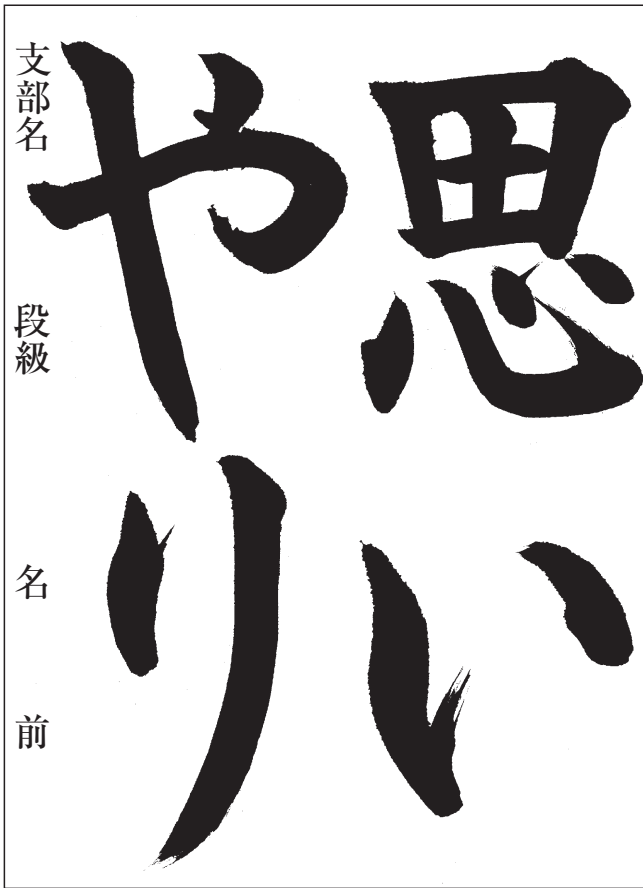
中1用

支部名	の	花	思	い	出
段級	花	出			
名前					
前					

渡邊南嶂先生

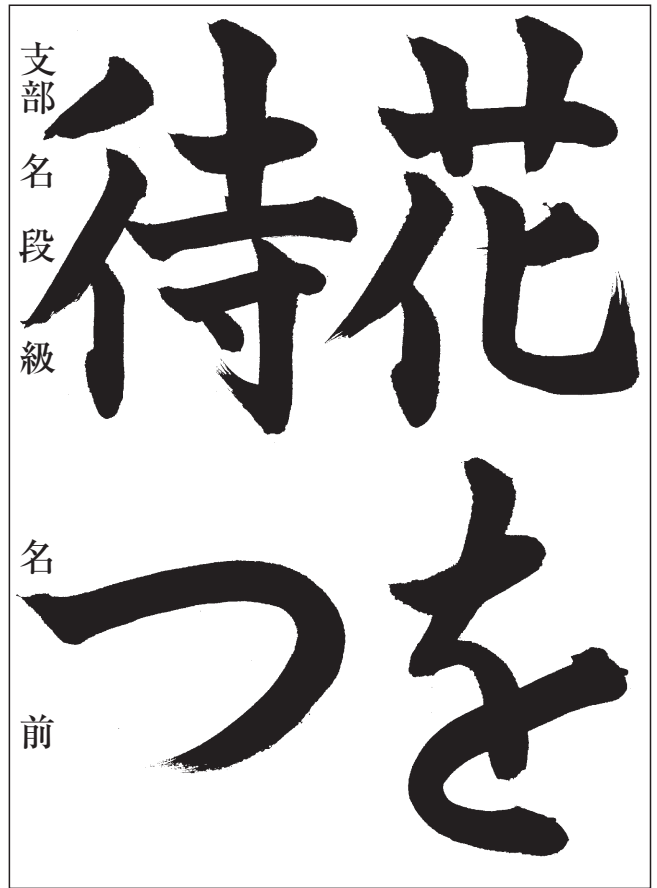
5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

小4用



大越三宗先生

小5用



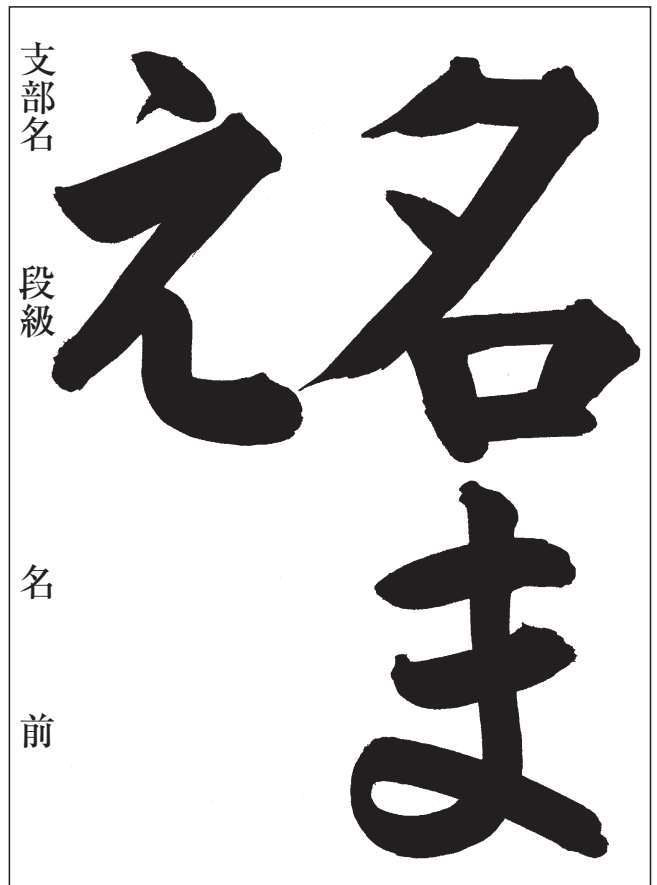
大越三宗先生

小2用



鈴木翫恵先生

小3用



鈴木翫恵先生

5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

中1

日本列島には、六千種の植物が生育している。

中1~中3

中2

街の中の看板は、圧倒的に楷書体が多い。

青柳江

中3

人間にとって、自然は貴重な資源の宝庫だ。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

うま

鈴木 惠 先生

小1・幼年

さあ、げんきに、がっこうへいこう。

小1~小3

小2

空に白いヒコキぐもが、うかんでいる。

齋藤 翡翠

小3

小鳥のさえずりが、とてもにぎやかです。

流先生

小4

苦しいこと、の後は楽しいこともある。

小4~小6

小5

麦畑の上には、春の青い空が広がっている。

鈴木 蕙

小6

四月の不順な天候も、五月は安定してくる。

翠先生

5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

小学部小筆課題

中学部かな課題

船久保 棠苑 先生

鳴くもげり

松風たもて落ちに
けむ

支部名 段級 名前

主幹 菅野翠濤

森の鳥

小川の魚

支部名 段級 名前

5月10日締切並びに前期昇段級試験課題（5月15日締切）

6月10日締切課題予告

A部（準五段以上課題となります） 虞世南（唐）『孔子廟堂碑』

条幅規定① 于時天撫浸微地維將絶周室大壞魯道日衰

B部（四段以下課題となります。旧C部はB部に含まれます）

条幅規定② 膏流斷節横洞口而敲臥頓山腰而半折文衰

かな条幅規定 なべてよはさびしきものぞくさまくらたびにありともなかなげかむ（会津八一）

半紙規定（初段以上） 人也其先蓋

半紙規定（二級以下） 賞錫當功得

半紙かな（初段以上） ふちはらのおほきさきさをうつしみにあひるごとくあかきくちびる（会津八一）

半紙かな（二級以下） 白ぼたん崩れんとして二日見る（夏目成美）

令和6年書道コンクール課題6月14日締切

高校毛筆 茂木俯清泉

高校硬筆 換鷺五月号13ページ一般硬筆一級以下課題（行書でも可）

中三毛筆 四季の風景

中三硬筆 科学力で生命の不思議が、かなり解明された。

中二毛筆 楽しい旅行

中二硬筆 新緑がまぶしい、心の洗われる季節となった。

中一毛筆 季節の便り

中一硬筆 今日木陰が恋しいほど、汗ばむ一日でした。

小六毛筆 日本の城

小六硬筆 野原一面、黄色いきれいな花がさいている。

小五毛筆 文字の形

小五硬筆 わか葉のかがやきが美しい季節になった。

小四毛筆 タヤけ空

小四硬筆 晴れた空に、白い雲がうかんでいます。

小三毛筆 水あび

小三硬筆 空に、このほりが元氣よくおよいでいる。

小二毛筆 ボタン

小二硬筆 花だんのバラに、てんとう虫がとまった。

小一・幼年毛筆 ほし

小一・幼年硬筆 おおきく、はつきりとへんじをしよう。